

日本計量生物学会

ニュース・レター No.63

1998年4月

目次

巻頭言

会長から一言

1997年度第6回理事会議事要旨

日本計量生物学会会則変更(案)

日本計量生物学会名誉会員の推薦に関する細則(案)

Biometricsサマリー翻訳

お知らせ

岩崎 学(成蹊大学工学部経営工学科)

今から7, 8年前, 統計教育についての論説を読んでいた際, 統計学の教科書は定理-証明式のもの(theorem prover)であっても料理本的なもの(cook-bookery)であってはならないという記述に出会った。その時はなるほどと思い, 以後受け売りで, 統計の書物はクックブックであってはならないなどと言ったりもしてきた。

しかし, 最近になって料理本の例えはどうも誤りではないかという気がしてきた。彼の論説を書いた統計学者は, 名前は忘れてしまったが英国の男性で, しかるに料理の経験はあまりなく, 料理本などほとんど見たことはなかろうことは想像に難くない。

料理本に書いてあるのはレシピである。料理の初心者にとってはレシピは貴重であり, それに従えば誰でも何とかそれらしきものは出来る。しかし, 本当においしい料理は, 当然ながら料理本を見ただけでは作れない。自分なりにどう味付けを工夫するかが勝負の分かれ目である。

パソコンおよびソフトウェアの普及により統計的データ解析に携わる人口が飛躍的に増加しつつある現在, 統計の書物として求めら

れるものはレシピが書かれた料理本の類なのではないかと考える。たとえば検定について知りたくても, 確率の定義やら条件付き確率から始まって, 期待値の計算, ヤコビアンを使った変数変換, 大数の法則や中心極限定理といった山をいくつも越え, ほとんど遭難の一步手前になりながらやっと目的箇所にたどり着いたと思ったら, 帰無仮説の棄却・採択だけでp-値の説明すらないといった教科書は, 忍耐力を養うのも目的の一つである(?)大学の授業では有用であっても, データを目の前にした実務家にとっては無用そのものである。取り敢えず目の前のデータを料理するためには, レシピがないと困るのである。もちろんレシピには味付けの妙味があつて, 工夫・想像の余地の一切ないマニュアルとは根本的に違う。統計のマニュアル本は最低だ。

見るからにおいしそうな, とまではいかにしても, 素敵な「統計データの料理本」をどなたか書いていただけないものでしょうか。おいしい料理にはいい素材(データ)を選ぶことが一番大切とか書いてあつて, 書店で間違えて料理コーナーに横積みされたりしていれば最高ですね。

統計データの料理本

会長から一言

吉村 功

本学会の事務局問題が待ったなしになってきました。事務局は、奥野忠一会長のときに東京理科大学に移した後、奥野先生が久喜に移られたときに駒澤勉会長の統計数理研究所に移しました。ところが今度は駒澤先生が停年退職で統計数理研究所を去られます。私の研究室は「もしかしたら Professor という肩書きの居室としては世界中で最も狭いのじゃない」と言われる状態なので、引き受けようがありません。とりあえずは、佐藤俊哉庶務理事の居室に机と資料は移しましたが、事務局を長期においてよい場所とは言い難いところです。

さあ、どうしましょう。

前に、本学会と応用統計学会との協力関係を密接にする試みをスタートさせたとき、本学会の内部では、経済的にも事務的にもあまり利点を感じられない、という雰囲気がありました。実際、経費はかえって多めになり、意志決定の段階が増えたことは間違いありません。性格の違いが、たとえば春の学会で特別会費を集めにくくなったということなどにも出てきました。

でも、会長が代わる度にそこに事務局を移すというのは無理になってきています。学会事務センターなども意外に頼れませんから、丁度「国立共同研究機構」のように、異なった学会のその個性を尊重したまま事務機構を一つにする、というアイデアで事務局問題を処理しても良いのではないのでしょうか。

具体案は近く、理事会で検討しますが、会員の皆さんも他人事とは考えないで、「うちで引き受けましょう」というくらいに考えていただけないのでしょうか。もちろん、東京以外の場所であって差し支えありません。ただ、事務局を引き受けると、自動的に学会の運営に関わらざるをえないのはお認めいただく必要はあります。

それはともかくとして、駒澤先生、会の運営等でご努力いただきどうもありがとうございました。会員一同に代わって心より感謝の意を表します。

1997年日本計量生物学会第6回 理事会議事要旨

日 時：1997年11月25日（火）18：00～20：20

場 所：統計数理研究所特別会議室

出席者：岩崎、上坂、魚井、鵜飼、大瀧、岸野、
佐藤（喬）、佐藤（俊）、高木、丹後、椿、
橋本、吉村 各理事 栗原 事務局

1. 前回議事要旨の確認

若干の訂正の後、前回議事要旨が承認された。

2. 前回審議事項のフォローアップ

佐藤（喬）会計担当理事から、1997年度会費の本部送金は1ドル121円で行ったと、報告があった。また、追加理事としては佐々木秀雄氏が推薦され、全員一致で了承された。

3. 庶務理事からの報告

応用統計学会シンポジウム（10月30日、31日、於統数研）を協賛した。

10月8日に応用統計学会との第3回連絡委員会が開催され（後述）、当学会から合同年次大会に供託していた10万円が返還された。

10月14日に、IBC Council Member候補者として日本支部から丹後俊郎理事、林邦彦理事の2名を推薦した。

学協会著作権協議会へ、今年度の複写使用料分配のため、当学会の会員数と雑誌の年刊刊行ページ数をしらせた。また、当学会事務局の複写使用料として40円を支払った。

「雑誌新聞総カタログ」98年版にJapanese Journal of Biometricsの紹介、「ジャミックジャーナル」に来年度の合同年次大会の日程、を掲載する。

4. 第5回計量生物セミナー

佐藤（喬）会計担当理事より収支が報告された。収入が2,722,000円、支出が1,920,627円（ただし、参加費60,000円が未収なので、最終的に収入は2,782,000円となる）。また、会場で途上国援助の寄付をお願いしたところ、28,730円の募金をいただいた。寄付をいただいた皆様に感謝します。

臨床の部、生物の部ともにたいへん盛況であり、来年度も引き続き大橋理事（臨床の部）、三中理事、岸野理事（生物の部）に企画をお願いするこ

とした。

富士教育研修センターの都合で、1998年は10月16日（金）、17日（土）、1999年は10月15日（金）、16日（土）を予約済みである。

5. 1998年度合同年次大会について（1998年5月12日、13日）

連絡委員会では、来年度の大会参加費を会員3,000円、非会員5,000円、会員・非会員に関わらず学生1,000円とする案が出されており、協議の結果これを承認した。

5月12日の昼休みに日本計量生物学会理事会を開催する。また特別セッションでスライド等を使用する場合があるので、OHPだけではなくスライド映写機、PCプロジェクターの手配も岩崎理事にお願いした。

当学会の特別セッションとして岩崎理事を中心に「生物統計家の教育と研修」の企画が進んでいる。岩崎理事から、日本の生物統計教育に関して村上会員（統数研）、三宅会員（日本医大）に、海外の事情については丹後理事に発表をお願いしている、また卒後研修については企業側と大学側に現在交渉中である、と報告があった。日本製薬工業協会から最近行なった調査結果の報告と、医学系以外の生物統計教育に求められている内容について二宮理事からも報告してもらうことにした。

6. 各理事からの報告

高木渉外担当理事から、前回協議された会則の変更についての案が提出された。事務局の設置に関する第2条、名誉会員に関係する第5条と名誉会員に関する細則、会費に関する第7条とその補則、総会に関する第16条、について協議した。補則は会則の一部であるので、会費額を補則に入れた場合でも総会での補則変更が必要となってしまう。このため会則変更規定に「補則は理事会で定め、総会に報告する」などを追加する、また事務局についても補則に定める、こととして次回までに変更案を作成してもらう。

上坂編集担当理事から雑誌について、preliminary reportが一編採用され、1995年度のセミナー報告とともに本年度のNo.1を刊行する、と報告があった。本年はNo.1 & 2として発行し、来年度から新たにスタートし直すことになった。雑誌の性格について若干の議論があり、編集委員

会で検討してもらうことにした。

椿理事より本日開催された関連学会懇談会の報告があった。関連学会懇談会座長が本日より大学入試センター藤井氏から東京理科大吉村氏になった、またホームページに学会誌の著者名一覧を掲載する準備中である。

7. その他

IBS Award Fund Committeeから会長あてに、IBC98（ケープタウン）への旅費援助の依頼があった。会計理事から、特別会費および途上国援助の寄付は集まりが思わしくなく、例年特別事業費から借り入れて送金している、という現状報告があった。しかし、もともと特別事業は途上国援助の一環としようという議論もあったので、今回も本部へ3,000ドルの援助を行う旨を会長が回答することとした。その際、あくまでも途上国援助が目的であることを明記したい、と会長から意見があり、これを承認した。

欠席の柳川理事から、次期IBS会長のSusan Wilsonさんが来年1月21日から1週間、九州大学を訪れるので、日本支部として何かミーティングを開けないかと提案があった。

上坂理事からニュース・レターに求人広告を掲載してはどうかと提案がなされ、承認された。スペースと料金の体系案を上坂理事、佐藤（喬）理事で検討し、次回理事会に案を提出することになった。

学会事務局の設置場所に関しては、引き続き駒澤理事が統数研管理部と交渉中である。

今回は3月6日の年会一般演題申し込み締め切り後、3月10日18:00から、統計数理研究所で開催予定。

記録 佐藤俊哉 庶務担当理事

日本計量生物学会会則変更について（案）

〔現行〕2. 本会の事務局は、原則として庶務理事の所属する機関におく。

〔改正〕2. 本会の事務局は、補則で定める。

〔改正〕

5. 本会の会員は次のとおりとする。

(1) 正会員…第3条にあげた研究に従事する者またはそれに関心を有する者

(2) 学生会員…大学の学生(大学院をふくむ)あるいはこれに準ずる者

(3) 賛助会員…本会の目的に賛同し、その事業に財政的援助をする者または団体

(4) 名誉会員…本会の発展に多大な貢献をした者で、別途定める細則によって理事会において推薦され、総会において承認された者

[現行] 7. 会費として正会員は年額10,000円、学生会員は5,000円、賛助会員は一口10,000円以上を毎年1月末日までに納入しなければならない。ただし、国際計量生物学会からの機関誌Biometricsの送付を希望しない者の会費は、正会員・学生会員とも年額4,500円とする。

[改正] 7. (1) 会費として正会員は年額10,000円、学生会員は5,000円、賛助会員は一口10,000円以上を毎年1月末日までに納入しなければならない。ただし、国際計量生物学会からの機関誌Biometricsの送付を希望しない者の会費は、正会員・学生会員とも年額4,500円とする。

(2) 名誉会員の会費は無料とするが、Biometricsの送付を希望する者は、国際計量生物学会会員としての実費を負担しなければならない。

[現行] 15. 本会の会議は総会と理事会とする。総会は通常総会と臨時総会とする。総会は正会員・学生会員および賛助会員のなかの個人会員をもって組織する。理事会は理事をもって組織する。

[改正] 15. 本会の会議は総会と理事会とする。総会は通常総会と臨時総会とする。総会は正会員・学生会員・名誉会員および賛助会員のなかの個人会員をもって組織する。理事会は理事をもって組織する。

[現行] 16. (1) 通常総会は毎年1回4月に会長が招集する。

[改正] 16. (1) 通常総会は毎年1回、会長が招集する。

[現行] 21. 本会則の改正には総会において出席者の3分の2以上の議決を経なければならない。

[改正] 21. (1) 本会則の改正には総会において出席者の3分の2以上の議決を経なければならない。

(2) 補則の改正は理事会で議決し、総会に報告する。

[現行] [補則] 3. 1996年度の会費は現行のままとし、上記7.の会費は1997年度より施行する。(正会員10,000円、学生会員5,000円)

[改正] 現行の補則3を削除し、以下の文に置き換える。

[補則] 3. 本会の事務局は、統計数理研究所内におく。

日本計量生物学会名誉会員の推薦に関する細則(案)

正会員10人以上の賛同者、または理事は、次のいずれかの条件を満たす者を、本人の承諾を得て名誉会員として理事会に提案することができる。

(1) 多年本会に貢献した者

(2) 会長であった者

(3) その他とくに名誉会員の称号にふさわしいと認められる者

雑誌BIOMETRICS サマリー翻訳

“Effect of Excluding Sib Matings on Inbreeding Coefficient and Effective Population Size of Finite Diploid Populations” (Biometrics 53: 1354-1365) J. Wang

(きょうだい交配の排除が二倍体生物の有限集団における近交係数および有効サイズに及ぼす影響)

家畜や実験動物の育種、野生動物の施設内での継代繁殖では、繁殖に関与できる個体の数が制限されている。このような場合、近親交配による弊害や遺伝的浮動による有害遺伝子の固定あるいは有用遺伝子の消失をできるだけ小さくとどめるような繁殖様式を採用する必要がある。近親交配による近交度の蓄積および遺伝的浮動の大きさは、近交係数と集団の有効サイズと呼ばれる2つの集

団遺伝学的パラメータでとらえることができる。

この論文は、全きょうだい交配（同じ両親を持つ個体間の交配）あるいは半きょうだい交配（一方の親だけが同じ個体間の交配）の排除が、性比の異なる有限集団における近交係数と有効サイズに及ぼす影響を調べたものである。生まれた子どもから次世代の親を選ぶときの選び方としては、ランダムに選ぶ方法と各家系が寄与する子どもの数（家系サイズ）を等しくするように選ぶ方法の2通りが考慮されている。交配様式として、全きょうだいと半きょうだいの一方だけあるいは両方を排除する場合および両方を排除しない場合（ランダム交配）を取り上げ、上記の2通りの子どもの選び方と組み合わせて計8通りの繁殖様式について、近交係数に関する漸化式と有効サイズに関する近似式が示されている。それらの式に基づいて以下の結論が導かれている。1）ランダムに親を選ぶ場合には、きょうだい交配の排除は、全世代を通じて近交係数の上昇を抑える働きを持つ。一方、家系サイズを等しくした場合には、きょうだい交配の排除が、近交係数の上昇を抑えるのは初期の数世代だけであり、きょうだい交配の排除を長く続けるとランダム交配下よりも近交係数が高くなる。2）きょうだい交配の排除は、ランダムに親を選ぶ場合には集団の有効サイズを拡大する働きを持つが、家系サイズを等しくした場合には逆に縮小してしまう。3）性比（ r ）が大きくなるにしたがって、全きょうだい交配が集団の有効サイズに及ぼす影響は低下するが、半きょうだい交配の影響は増大する。 $r = 3$ のときには、全きょうだい交配が集団の有効な大きさに与える影響は、半きょうだい交配が与える影響と等しくなる。

野村哲郎（京都産業大学工学部）

関連学会等のお知らせ (1998年5月—1998年12月)

- 1998年5月14-15日 日立製作所公共情報営業本部（東京都東陽町新砂プラザ）
日本計算機統計学会大会
- 1998年5月14-15日 McMaster University, Canada
Statistics without Pain Workshop
連絡先：FAX 905 577 0017

e-mail: taylorlmm@fhs.mcmaster.ca

- 1998年8月9日-13日 Dallas, USA
1998 Joint Statistical Meeting sponsored by ASA, ENAR, and WNAR
連絡先：FAX 703 684 1221
e-mail: meetings@asa.mhs.compuserve.com
- 1998年8月24日-28日 Bristol, UK
COMPSTAT '98
連絡先：FAX 44 1582 760981
e-mail: compstat-98@bristol.ac.uk
- 1998年9月7日-11日 Glasgow, UK
The 1998 Royal Statistical Society Conference (RSS98)
連絡先：FAX 44 (0)141 552 2079
e-mail: rss98@stam.strath.ac.uk

その他、関連学会・会議・セミナーなどございましたら、ニュースレター編集委員までお知らせ下さい。

1998年度応用統計学会・日本計量生物学会合同年次大会のお知らせ

1. 期 日：1998年5月12日（火）、13日（水）
2. 会 場：中央大学駿河台記念館（JR「御茶ノ水」駅下車徒歩5分）
3. 参加費：正会員3,000円、非会員5,000円、学生1,000円

会計理事からのお知らせ

1998年度の会費の納入をお願いいたします。本学会の会計年度は国際計量生物学会の会計年度に合わせて1～12月です。B会員およびC会員で、会費を1年間未納にした会員は規定に従い雑誌Biometricsが届かなくなります。詳しくは、ニュース・レターNo.48巻頭言をご覧ください。

会費	1998年度
A会員	4,500円
B会員	10,000円
C会員	5,000円
開発途上国援助のための特別会費	2,000円

特別会費はA, B, C会員会費に2,000円を上乗せして下さい。

A会員: Biometricsを購読しない正会員

B会員: Biometricsを購読する正会員

C会員: 学生会員 (Biometricsを購読する)

郵便振替口座:

00150-2-22365 日本計量生物学会

銀行振込口座:

第一勧業銀行 飯田橋支店

普通 061-1499027

日本計量生物学会

または,

三和銀行 飯田橋支店

普通 624-3596166

日本計量生物学会

ニュース・レターへの広告掲載のお知らせ

次号からニュース・レターに広告欄を設けるととなりました。掲載料は、1ページ3万円、1/2ページ2万円、1/4ページ1万円です。広告収入は、すべて途上国援助に用います。掲載ご希望の方は、事務局まで。

事務局からのお知らせ

同封の総会委任状のはがきは、総会に参加される方も、郵便番号(7けた)の確認のため、郵便番号を明記の上、事務局へ返送して下さい。

銀行振込で会費を納入していただく場合、機関名が長いと会員名が切れてしまい、どなたからのお振り込みか、事務局では分からなくなることがあります。銀行振込の際には、必ず会員名を先頭にして下さい。

学会への連絡、問い合わせ等は手紙またはFAXで下記事務局までお願いします。また、所属、連絡先等に変更のあった会員の方は、事務局までご一報下さい。

編集後記

前橋では、今ちょうど桜が満開です。本号には、会則変更(案)および名誉会員の推薦に関する細則(案)が掲載されています。総会まで、御一読の程お願いします。ニュース・レター広告掲載のお知らせもあります。また、久々にBiometricsサマリー翻訳が、1論文ですが掲載できました。会員の皆様で、御自身の研究や興味に近い論文がございましたら、是非そのサマリー翻訳をニュース・レター編集委員までお送りください。では、来月、合同年次総会でお会いしましょう。

(赤城山から)

日本計量生物学会事務局

〒106-8569 東京都港区南麻布4-6-7

統計数理研究所佐藤研究室内

FAX 03 (3446) 1695

栗原恵美子

編集委員会 林 邦彦, 橋本修二

〒371-8514 群馬県前橋市昭和町3-39-15

群馬大学医学部保健学科医療基礎学

林邦彦

FAX 027 (220) 8999

e-mail khayashi@news.sb.gunma-u.ac.jp